

Organic Information Design

-Dynamic Sources of Information made Accessible through Reactive and Adaptive Visualization

Benjamin Fry, *Aesthetics and Computation Group, MIT Media Lab., USA*

目に見えない情報を如何に直観的に伝えるか、という問題はデザインと計算機科学という二つの分野が共通に持つ問題である。

計算機科学の分野では、この問題を解決するための手段として「情報可視化 (Information Visualization)」と呼ばれる技術が研究されている。

Benjamin Fry の紹介する技術も、この情報可視化に分類される技術の一つである。

静的な情報の可視化技術は広く研究されており、その記述方法や構造は十分に検討されている。しかし、それらの技術は動的な情報を考えた場合には十分でないことが多い。それは我々が深く理解していない/できないような、高度に複雑な系である場合が多く、その構造や内容が連続的に変化するデータを可視化する手段が殆んど無いためである。Benjamin はこのような系 (オーガニックシステム) は、構造化、成長、適合理化など 9 つの特性 (property) によって特徴づけられると分析し、これを分かりやすく、かつ動的に可視化するためにオーガニック情報デザインという可視化プロセスを導入した。

Benjamin の提案する手法では、WEB ページのアクセス数のように動的な情報源から生成された莫大な定量データ/定性的な事実をインタラクティブに視覚化する。発表ではこの例として

- ・ ZIP コードからの地図絞り込み可視化
- ・ 3D 球体を用いたテキスト中のキーワードの動的な可視化
- ・ WEB サイトのアクセス動向 (トラフィックパターン) をツリー状に可視化

といったアプリケーションのデモを行った。

松下光範

mat@cslab.kecl.ntt.co.jp